



Until we are all equal



Plan International

暴力から守る



2024年に得たエビデンスの概略

プラン・インターナショナルは、グローバル戦略: **立ち上げ、女の子たち**に基づき、人道危機への対応のみならず、6つの優先テーマ分野でのプログラム実施に焦点を置き、80超の国々で活動を展開している。

プラン・インターナショナルでは、子どもとユース、特に女の子が、**暴力・恐怖・差別から解放されて成長できるように**することに重点を置いて、**暴力からの保護に取り組んでいる**。中核となる重点分野は:

- 家族とコミュニティが子どもとユースを守る環境
- 暴力を受けた子ども・思春期の若者・ユースを対象とする保護サービス
- 多部門による連携・調整能力・保護のための政策と法的枠組み
- 特定の危険に特化した子ども保護プログラム

2024年末、私たちは活動対象国とプロジェクトから得られた各テーマ分野のエビデンスについて、成果と評価、内部・外部による重要調査、年次報告書の数値・データを含めた検証を実施した。本概要では、暴力からの保護について真に求められていることを2024年に得たエビデンスから明らかにし、そこから学ぶべきことと共に、その一部をまとめている。

活動の詳細は[こちら](#)から



主要な洞察



- ある程度前進は見られるものの、世界が子ども・思春期の若者・ユース、特に女の子とユース女性への暴力という深刻な問題を抱えている状態は今も続いている。2~17歳の子どもの2人に1人が、毎年何らかの暴力を受けていると推計されている。予算やサービス、法律など多部門の連携不足、テクノロジーの利用拡大の影響・気候危機・紛争・他の圧力を背景に、根底にある問題は一層深刻化し、サービスの利用と対応を妨げている。
- 2024年、子どもの保護の危機と対応に関する啓発活動では前進がみられた。さまざまな取り組みが行われたが、コミュニティで話し合い問題を特定する、(コミュニティ指導者を対象としたものを含む)既存の支援ネットワークとプラットフォームによる取り組み、ユースを対象としたピアツーピアの議論の場、入り口として学校を活用する等が、共通の有効策として明らかになった。
- プログラムは、あらゆる多様性を持つ子ども・思春期の若者・ユース、特に女の子とユース女性、のニーズに対応した手法をとることが必須であり、それは、彼らに合った設計とリソース配置を実現するために、包括的な協議とニーズ評価の実施が必要であることを意味する。
- 各プログラムでは、ユースとの協働を促すと同時に、規範と行いを変革していく中で指導者を含むコミュニティと家族の関与を強化し続ける必要がある。単に受け手として関与するのではなく、積極的に取り組みに貢献する形で関与しなくてはならない。
- 十分なリソースと質の高いサービスの継続性が保証されるよう、政府とサービス提供者の多部門による能力強化は継続的に優先される必要がある。そこには、子どもへの暴力と女性への暴力の防止・対応に関するサービス提供における部門の壁を越えた連携の強化を求める提唱活動と取り組みが含まれるべきである。
- オンラインでもオフラインでも、市民の活動の場が狭まる中で、声を上げたことで、女の子や若者が暴力の対象になるリスクが高くなっている暴力の防止や対応策の計画と実施の段階で、この点を(リスク軽減を含む)文脈分析に反映させる必要がある。

数値で見る 2024年

ポジティブな子育て

74% の2024年に調査

に参加した保護者が、ポジティブな子育てを実践していると回答し、内、女性は77%、男性は68%だった



(6つのプロジェクトに参加した516人の参加者の観察データ)

出生登録

93.5%

のチャイルドが出生登録済みで、女の子と男の子の割合はほぼ同じだった



(チャイルドと家族110万人超の年次調査データ)

暴力からの保護に関するプランのグローバルな展開



女の子600万人へのジェンダーに配慮した保護措置

暴力防止プログラムを通して**子どもと大人1880万人**にジェンダーに配慮した保護措置を提供



コミュニティ住民とボランティア**36万6,474人**とパートナー組織・機関の職員**2万5,714人**に、子どもの保護に関する研修を実施

(年次報告、2023年7月~2024年6月)

女の子に対する暴力の撲滅を訴える提唱活動

女の子に対する暴力の撲滅に向けた働きかけで、**53件の成功事例**が報告されている。例えば:



女の子の権利に関する法律・政策・規制・指針に関する**25の変更・改善**



女の子の権利の向上に寄与する、投資・予算・支出・制度・サービスに関する**5つの取り組み**

(グローバル・アドボカシー戦略に基づく年次報告、2023年7月~2024年6月)

喫緊の課題は何か 主な調査結果

ある程度前進はみられたが、子ども・女性・女の子への暴力は依然、重大な問題である。世界で2歳～17歳の子どもの2人に1人(10億人)が、毎年何らかの暴力を受けている¹。また、一生の間にジェンダーに基づく暴力(GBV)を受ける女性と思春期の女の子は3人に1人(7億3,600万人)に上り、思春期の女の子が親密なパートナーからの暴力(IPV)を受けるリスクは高まっている²。予算/法律/多部門連携の不足・気候危機・紛争・他の圧力の影響を背景に、根底にある問題は一層深刻化し、サービスの利用と対応を妨げている。

「私たち女の子が直面しなくてはならないのは...安全の欠如です。夜に街に出ると、確かなものは何もなく、怖いです。街には悪い人が大勢いて、何か起こるかも...レイプされるかも、と恐怖に怯えます」

Bianca, 17歳、ブラジル

2024年プラン・インターナショナルが実施した複数の調査では、地方部の住民や先住民、移動中の者、危機下にある集団が暴力を受けるリスクが高まり、人びとは暴力が依然横行していると感じていることが明らかになった。「現実の選択、現実の生活」の調査から、GBVは女の子たちがコミュニティで経験する最大の問題の1つであることがわかった。

女性と女の子に対する暴力を含む暴力とIPVは、「危機下の思春期の女の子: シウダー・ファレス」等の複数の調査でも、移住や危機下における重大問題として指摘され、暴力から逃れるために移住するだけでなく、移動中に遭遇する危険性も浮かび上がった。

女性と女の子がIPVを含む暴力を受ける理由は、状況次第で異なる。例えば、*ホンジュラスでの調査*では、アルコール摂取・「暴力的で権威主義的な男性性」(地方部や先住民の女性の土地所有権など)権利の制限・早朝に畑に歩いて行くこと、が暴力に遭うリスクを高めていると考えられた。*サヘル地域の統合報告書*は、マリでのIPV増加の背景に食料不安があるとする一方で、マリとブルキナファソでは、戦闘員の存在・インフラ破壊の影響(そのために女の子と女性は水汲みや薪集めに遠くまで行かなくてはならなくなる)・避難・家族との別離・貧困が女の子と女性がさまざまな形で暴力に遭遇するリスクを高めていると指摘した。

世界規模調査「*Our Voices for our Tomorrow*」に参加したユースは、オンライン暴力・ハラスメント・オンライン上のボディシェイミング・AI生成ポルノ・ソーシャルメディア上のジェンダー平等に関する誤情報や権利を侵害した発言等、デジタル空間でのリスクに加え、デジタル格差によるジェンダー不平等の拡大について懸念を示した。

「オンライン空間が虐待の温床となり、女の子の自由な自己表現や、オンラインへの参加を妨げる可能性があります」

Nala, 20歳、サハラ以南アフリカ

各調査では、女性と女の子個人が暴力に遭遇した経験からどんな影響を受けるかについて分析は行われなかったが、より広く暴力の影響について分析している。地方部や先住民の女性が土地や環境を守るためにする仕事にも、フェミサイドの影響が及び、女性だから仕方がないという凝り固まった考え方がある、女の子と女性はコミュニティや家庭内で意見を言えない、自宅にいても安心できないという形で、その影響は表れていた。また、早すぎる強制された結婚の影響に関する具体的な懸念として、早すぎる妊娠と出産・健康問題・学業の終了や中断・労働責任の増加・経済的問題等が挙げられた。

Sophia, 22歳、は、紛争地域であるフィリピン・南マギンダナオ州で育った。恐怖を感じずに彼女ときょうだいが教育を受けられる機会と安全を得るため、家族は暴力から逃れ、コタバト市へ避難した。



Sophia, 22歳、は、プラン・インターナショナルがフィリピンでユースを対象に実施した平和構築ワークショップBridgesプロジェクトに参加した。同プロジェクトの平和大使として、彼女はリーダーシップスキルを含む数多くの研修活動に参加し、プロジェクトの展開時に使用された平和構築の手引きの作成にも協力した。

©Plan International

¹<https://www.paho.org/en/topics/violence-against-children>

²UN Women. 2023. Facts and figures: Ending violence against women.

新たにわかったこと 主な評価結果

2024年に5地域・19カ国を対象に実施した28件の暴力からの保護プログラムについて評価の振り返りを行った。

家族とコミュニティが子どもとユースを守る環境に関する取り組みの評価では、**子どもの保護の危機と対応**に対する多くの啓発プロジェクトで前進が見られた。さまざまな取り組みが行われたが、共通の有効策として以下の4点が明らかにされた。a) コミュニティでの議論・問題の特定・啓発・研修、b) 既存の支援ネットワークやプラットフォームの強化、c) コミュニティ指導者を対象とした取り組み、d) ユースを対象としたピアツーピアの議論の場、e) 入り口として学校を活用した取り組み。例えば以下の事例がある。

- **ベトナム**では、リスクを抱える少数民族の人びとのニーズに対応するプロジェクトが目標を上回る成果を上げ、早すぎる結婚(児童婚)は(プロジェクト終了時に81%)、人身取引は(プロジェクト終了時に78%)の子どもとユースがこれらのリスクから自分自身を守る能力がついたと感じ、さらに、自身の権利を求めて提唱活動を行って両方のリスクから自分を守ることに自信が持てるようになった。
- **ペルー**では、学校を基盤とした取り組みにより、子どもの保護と関連サービスについて実践的な知識を持つ思春期の若者の割合が増え、特に女の子は、プロジェクト開始時の32%から終了時には87%に上昇した。またこのプロジェクトでも、意識の変化について目標を上回る成果が得られ、思春期の若者から大人を含む約90%が、GBVの撲滅に向けて前向きな意識を示した。

プロジェクト数としては少なかったが、**暴力のサバイバー個人の主体性の感覚・支援提供者の知識と能力・ケアの質に対する感覚**などの面にわたって、好ましい成果が見られた。報告書では、例えば、子ども保護委員会や暴力防止グループとの連携・女の子と思春期の若者にやさしい空間の提供やサービス提供者の研修、多様なステークホルダーの関与など、コミュニティレベルでの取り組みが強調された。だが、前進がみられたとはいえ、今も女性と女の子のサービス利用に対する障壁の存在は評価と調査の両方で指摘されている。利用可能なサービスがあったとしても、規範があるため利用できない、スティグマを受けるのが怖い、ケアを受ける費用が工面できない、そして、当局の対応の不備等が、障壁となっている。

プロジェクトは、**部門の壁を越えて関係者が子どもの保護サービスに関する知識と連携を強化する**という目的は達成できた。子どもの保護に関与する教師など、保護に関わる関係者の知識と自信の向上を目標としたプロジェクトは、子ども保護体制や暴力の防止・対応に関するサービスの対応力に関する部分を含め、すべて目標達成率が高かった。しかし、サービス提供者の離職対策の重要性が大きなテーマであることが明らかになった。

働きかけについて、2024年は様々な状況でいくつかの重要な前進がみられた。例えば:

- **リベリア**では、女の子とユース女性のエンパワーメント支援に向けた政府予算の増額を実現し、大きく前進することができた。この資金は、GBV管理情報制度の拡大の後押しにもなり、女性のエンパワーメントと保護に対する政府の注力を裏付けるものだ。

- 武力紛争下の子どもに関するEUの政策には、教育・GBV・全体的にジェンダーの視点に立った手法の必要性に関する強い文言が含まれている。その実現のため、プラン調整事務局は、EUの「子どもと武力紛争に関する指針」の改訂に先立ち、意見交換と働きかけの一環も兼ねて、情報と意見を統合させた。同事務局はまた、指針の改訂を交渉中の人権担当大臣の作業部会と面会し、子どもと武力紛争担当の国連事務総長特別代表との意見交換会にも参加した。

児童婚と人身取引を減らすために、 ベトナムで行う働きかけの活動に子どもと ユースを参加させる

- 子ども・思春期の若者・ユースを、ピア教育/**チャンピオン・オブ・チェンジ**子どもクラブを通じて、政策決定者との定期的な対話に参加させる
- 義務の担い手と子ども・思春期の若者・ユースがラジオで意見交換しながら行う政策対話の実施と番組「Voice of Vietnam」とオンラインプラットフォームの統合
- 行政関係者・教師・ユース・村長が参加する働きかけワークショップを毎年各州で開催



子ども、特に女の子が意思決定できる力を身につけていく決意を参加した33人全員が誓った、#GirlsTakeoverイベントで演説するユース代表、ベトナム

一層の注力が必要な部分

2024年に得たエビデンスは、暴力からの保護において成果を上げるためには、どこに投資し、どのようにプログラムを設計するかについて、真に求められていることが何か、プラン・インターナショナルはもちろん、セクター全体に重要なメッセージを伝えている:

- **暴力からの保護に関し、保護者そして指導者を含むコミュニティとの協働を引き続き優先する必要がある。**それは、行動変容のプロセスにこうした人びとの関与をすすめることで、ユースとの取り組みの規模を拡大することを意味する。ただし、彼らは単に受け手という立場ではなく、積極的に取り組みに貢献する形で関与することが求められる。

- **恒常的にニーズ評価と協議を行う等、多様な対象集団のニーズに対応する方法を改善し続ける必要がある。**2024年に得たエビデンスから、支援が十分に届いていない集団や、障害を持つ人など特定のニーズを持つ人びとに特化し焦点を絞ったプログラムをどのように進めていくか、さらなる改善の余地が明らかになった。
- **持続可能性を実現するには、事前計画を徹底する必要がある。**大規模な変化を長期にわたって持続させるためには、政府その他義務の担い手を、提唱活動・能力強化、可能であれば共同策定・実施という形で関与させるための明確な戦略を、こうしたレベルを目指すプロジェクトの中心に置く必要がある。すべてのプロジェクトで、持続可能性維持計画と出口戦略を初期段階で策定し、それを基に関係者と協働して実施することも必要になる。



14~24歳の女の子とユース女性を暴力・虐待・搾取・ネグレクトから保護し、インターネットの安全な利用法を教えることを目的とした、子どもの保護と女の子の安全プログラム、デリー

2024年の他の発行物はこちら:

「現実の選択、現実の生活」: 2006年に生まれた世界9カ国の100人超の女の子の成長を追跡調査した調査シリーズ

「危機状況下にある思春期の女の子たち」: 長期化する危機的状況下を生きる思春期の女の子の声と経験を記録した調査シリーズ

「The Girls' Pact for the Future」: 思春期の女の子とユースが抱える不安と心に描くジェンダー平等で望ましい未来の姿、さらに政策立案者への提言を示したもの



Until we are all equal

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じているが、それが貧困、暴力、排除、差別によってしばしば抑圧されていることを知っている。そして、その影響を最も受けているのは女の子なのだ。

子ども、ユース、支援者、パートナーとともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまで、彼らの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え・対応できるようにする。私たちの広がり、経験、知識を活用し、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年以上にわたり、私たちは80カ国超ですべての子どもの生活を変えるために、決意ある楽観主義者を結集してきた。

皆が平等になるまで、私たちは止まらない。

Plan International
Global Hub
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

- plan-international.org
- facebook.com/planinternational
- twitter.com/planglobal
- instagram.com/planinternational
- linkedin.com/company/plan-international
- youtube.com/user/planinternationaltv

表紙写真: 17歳のHanadyは、アドレの避難キャンプで暮らす多くの思春期の女の子同様、折り、料理し、友達と過ごす日々を送っている。彼女は学校に戻ることを願い、スーダンでの以前の生活を恋しがっている。
©Plan International

免責事項: 本報告書で使用されている画像は、調査参加者のものではない。全ての画像の使用には、事前に同意を得ている。